

ちょっといい話 (No.3)

平成30年度

あるボランティアの被災者支援における活躍

国立吉備青少年自然の家

平成30年7月7日(土)の朝、西日本豪雨の被害で倉敷市真備地区が水没している映像が流れました。当所としては翌7月8日(日)に避難所となった3小学校を訪問し、絵本やぬり絵などの子供向け物資を届けました。その後も、様々な方々の応援や協力をいただきながら、次のような取組を行いました。

- ①避難所や学童に、子供向けの遊具や絵本の提供(5か所)
- ②学校等で開催される「学習ルーム」などへの出前事業
- ③文部科学省と共催したリフレッシュキャンプの実施(3施設8回)
- ④被災者支援の団体への宿泊場所の提供(シーツ代・施設使用料を免除)

被災者支援を展開する中で、積極的にかかわってくれた倉敷市出身のボランティアがいました。彼女は、大学2年生から法人ボランティアとして活躍し、小学校の教員となってからも継続してボランティア活動に参加しています。

最初に、8月8日(水) **①出前事業**で、東京からの講師と一緒に岡田小学校と二万公民館で**科学教室「火山の噴火実験」**を展開しました。予備実験に苦労しながらも薬剤の調合を進めて実験を成功させ、モクモクと出る溶岩に子供たちから歓声があがりました。

この日の昼食時に、**室戸(高知県)で開催される③リフレッシュキャンプ**の話題になり、岡山の参加者のためにバスが出るので、ボランティアとして参加したいとの強い希望が示されました。2回目として、8月18日(土)に倉敷駅から真備地区の子供たちと一緒に室戸に向かい、班リーダーとして2泊3日の活動の中で、「復興でピリピリしている現状から、少し離れた室戸での自然体験でリフレッシュしている姿」を見ることができました。

最後に、3回目として9月16日(日)からの**吉備での1泊2日の③リフレッシュキャンプ**にもボランティアとして参加し、班リーダーとして子供たちへの支援を行いました。吉備では低学年の児童も参加しており、教員の経験も活かして細やかな支援を行うことができていました。自然観察や運動会、流しそうめん、花火など、笑顔あふれる2日間となりました。

彼女からは、「**普段は気丈に振る舞っている子供たちも、何気ない会話から被災に対する悲しみや恐怖が根強く残っていることを感じ**、子供の気持ちに寄り添いながら支援することができました。」という感想が寄せられました。

